

放課後等デイサービス 事業所による自己評価

公表： 2024年3月31日

事業所名： こらいず たかす

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			同じ時間帯に2~3人のお子さんしかいないので、比較的ゆとりのあるスペースと判断しています
	2	職員の配置数は適切であるか	○			常勤5人、非常勤1人で運営しており、おおむね適切と判断しています
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	○			事業所内の段差には可動式のスロープを設置できるようにし、車いす使用者にも対応できるようにしています
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	○			直接支援はもちろん、関連した業務についても、結果と改善を心掛けるようにしています
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			保護者様のご意見を伺って、業務改善に努めています
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			結果をまとめ、ホームページに公開しています
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか		○		外部評価を依頼する相手先がないため実施していません。但し、鷹栖町の健康福祉課、教育委員会、町立小・中学校、町立保育園、鷹栖消防署、鷹栖派出所等の関係機関から、適宜ご指摘や指導を承っています
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			職員キャリアパスに則って、日常的OJT(支援実施中の指導)のほか、管理者が外部の研修会等で講演した内容を職員に伝達しています
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			行動観察や保護者からの聞き取りのほか、発達指標や感覚特性、社会適応力を把握するための標準化された検査を用いて課題を分析し計画を立てるようにしています
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○			発達指標:「乳幼児発達スケール」 感覚処理能力:「日本版感覚プロファイル」 視覚認知力:「WAVES」 社会適応性:「旭出式社会適応スキル検査」 他
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○			担当者が立案した計画を職員で確認して作成するようにしています
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○			スモールステップを設定し、段階付けしてプログラムを立てるようにしています

適切な支援の提供	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	○			基本的に個別支援なので、特別な内容を設定はしていませんが、長期休暇にプロジェクターを利用した活動を取り入れました。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			個別支援を事業所の特徴としているため、基本は1対1ですが、対人スキル・社会性のトレーニングが必要なお子さんについては、複数で実施することもあります
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○			始業前のスタッフミーティング(8:30~9:00)で確認しています
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか		○		終業時間ぎりぎりまで利用するお子さんがいることが多いため、その場合は翌日の始業前のスタッフミーティングで行うようにしています
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○			お子さんごとの個別カルテを整備し、支援内容、実施結果、反応等について記載し、次回以降の支援に反映させるようにしています
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○			6か月ごとのモニタリングを行い、前回との変化点を確認しています。必要な子どもについては、発達検査等で客観的に評価しています
関係機関や保護者との連携	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか	○			当事業所での発達支援は、子ども本人に対する支援はもちろん、保護者様に対して子どもの成長や発達に関する疑問や悩みにお答えすることに力を入れています。また、保育所等訪問支援を通じて、学校、保育園、幼稚園の先生方と連携しています
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○			担当者会議には、児童発達支援管理責任者または担当者が出席しています
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	○			送迎サービスを利用している児童については、下校時刻や行事などについて確認するようにしています。 自主通園している児童については、保護者から情報をいただいています
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	—	—	—	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	○			過去にさかのぼって情報を共有することはあまりありませんが、必要があれば対応します
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	—	—	—	これらの事例はありません
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○			鷹栖町子育て支援センターや他の市町村発達支援センター職員の方々と情報交換するなど連携をとっています

関係機関や保護者との連携	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	○			放課後児童クラブ、ちびカン・カンタラ・なんたら・たんたらの支援員と合同でAED講習を実施し、連携しています。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	○			鷹栖町立自立支援協議会委員として参画、また、鷹栖町事例検討会に参画しています。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○			自主通園している保護者には、療育場面を通して発達状況や課題について説明しています。送迎サービスを利用されている保護者に対しても可能であれば月に1回程度来所していただくようお願いしています
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	○			ペアトレのような継続的で体系化されたプログラムは実施していませんが、子どもの行動の理解や対応方法を保護者に説明するようにしています。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○			利用開始、契約の際には説明を行い、いつでも見られるように応接スペースに掲示しています
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○			子どもの障がい特性や親の心理を理解して接することができるよう心掛けています
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか		○		保護者会とまではいきませんが、開催できたらと思っています
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○			できる限り迅速に対応できるようにしています。苦情については、直接職員に言いにくいことを踏まえ、第三者委員を委嘱して相談できるようにしています
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○			今年度も不定期ではありますが、発行しました
	35	個人情報に十分注意しているか	○			職員への周知徹底、個人記録保管庫の施錠など、取り扱いには十分注意を払っています
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○			お子さんの認知・行動特性や親の心理を理解して接し、説明することができるよう心掛けています
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	○			地域住民に対する交流事業はしていませんが、鷹栖町内外の関係団体の視察などは受け入れています。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	○			緊急時対応マニュアル、防犯マニュアルを策定しています。感染対策では、感染対策委員会を設置し、感染対策マニュアルの他、「新型コロナウイルス感染症発生時における業務継続計画(BCP)を再策定しました
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○			今年度は避難訓練(火災想定、地震災害想定)、救急講習、感染対策訓練を実施しました。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○			虐待防止委員会及び虐待防止に関する職員研修は年2回定期開催することとしています
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	○			身体拘束が必要な利用者がいないため、実施していませんが、衝動的に屋外へ飛び出さないよう玄関を施錠しています。個別支援室に子どもだけを部屋に入れて施錠することはなく、必ず職員も同室しています。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○			食物アレルギーの有無については利用開始時に確認するようにしています。現在、医師の指示書があるお子さんはいません
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○			ヒヤリハット事例については、記録を残し、事故発生防止に向けて検討するようにしています 令和5年度 ヒヤリハット 7件 事故 0件